

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	小石川ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が拡がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。またこの【オノマトペ】は乳児にも取り組みやすいテーマではないかと考えました。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者が動物の鳴き声について問いかけました。「この動物はなんて鳴くか知っている？」「動物園で何て鳴いていたか聞いたことがある？」「ジェシカ先生は英語の先生だけれど、英語でも同じ鳴き声なのかな？」子どもたちは、「ジェシカ先生は、英語しか話せないんだよ。でも動物の鳴き声は同じだよ。」「英語と日本語だと動物の名前が違うから、きっと鳴き声も違うんだよ。」日本語と英語は違うことばということは理解しているようです。

【流れ】英語講師の来園日には、英語で動物の鳴き声の入った歌を歌ったり、動物以外の擬態語や擬音語《オノマトペ》の入った英語絵本の読み聞かせなどを行い、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また自由遊びの時間に保育者が日本語で動物の鳴き声の入った歌を歌い、英語講師は子どもたちと一緒に参加します。また皆と一緒に英語で使っている絵カードで《オノマトペ》遊びをします。このように、子どもも大人も一緒に英語と日本語での《オノマトペ》を共有します。発話が難しい乳児クラスでも日本語、英語の《オノマトペ》を体験します。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

*読み聞かせ：全クラス*歌：全クラス*カード遊び：全クラス*英語で工作：5歳クラス

【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

- * 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"
- * 図鑑：どんななきごえ？ どうぶつずかん
- * 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード
- * 2024年度に使用した英語の絵本："The very hungry caterpillar","Today is Monday"



4-①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

* 全クラス：

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

愉快的な牧場の歌、曲は耳にしたことがあるようで「聞いたことある、知ってる」と声が上がり、何度も聞くうちに「イーアイイーアイオー」の部分を楽しく歌う姿が見られた。動物の鳴き声というよりは「イーアイイーアイオー」の部分が耳に残るようで口ずさむ姿があった。保育者が動物の鳴き声はどんなだったか問うと「ぶたはクウィクウィだった」とぶたの真似をしながら答えていた。英語の歌も知っているようで混同して覚えているようであった。

4-①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。

* 全クラス：

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

学年によって興味の示し方が違っていたが、楽しそうなリズムのある音楽や、耳にしたことのある鳴き声や動物の絵や写真があるため乳児のクラスでも楽しんでいる様子だった。0歳クラスは、保育者が歌い踊ると興味を示し近寄ってきて集中が見られた。声や言葉を発する1歳児クラスは動物の鳴き声の部分に興味があり一緒に歌おうとする姿が見られた。同じメロディーの歌で耳にしたことはあり、レッスン中も口ずさんでいた。



<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】2024年度からの続きで、同じメロディを日本語と英語で歌ってみることで、違っている部分や、同じ部分を子どもたちが気づくようになってきた。動物の鳴き声を日本語と英語で比較してみたり、どのようなオノマトペがあるのか、それは日本語と英語でどのように違うのかなど、英語と日本語の違いに興味を持つ場面が増えてきた。曲はリズムが早いこともあり、難しい様子も見られたが、「イーアイイーアイオー」の部分では張り切って歌う様子が見れた。英語と日本語どちらもあることを不思議に感じているようだった。

【次回への問い】英語のレッスンで使用している動物カードを使って、視覚的に動物の鳴き声を問うてみたり本物の鳴き声を図鑑で聞くことで、動物の鳴き声をどのように子どもたちは感じるのだろうか？

4-②. 探究活動の実践（動物絵カードを使う）

<活動の内容>②英語レッスン中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う

*全クラス：

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

イラストカードを見ると喜んでタッチしに行く姿が見られた。1歳児クラスではイラストカードと一緒に動物の鳴き声にも興味を示しなりきって楽しんでみる姿もあった。動物のイラストや鳴き声に興味をもっていた。泣き声クイズをしてカードをもらえると喜んでた。乳児は動物のカードを見て「ワンワン」「にゃー」と鳴き声でカードの動物を表現しているが、幼児はカードの動物をぴよんぴよんなどの擬態語で表現したり知っている英語で答えたりしていた。

4-②. 探究活動の実践（日本語でも英語でもなく、本当の動物のなきごえは？）

<活動の内容>②自由遊び中に動物のなきごえ図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。

*全クラス：

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

動物の鳴き声を子どもに聞き、音の出る絵本を開いて確認していた。子ども達は鳴き声を真似たり、その後に聞こえた音も真似ていた。友だちや保育者に「今～って聞こえたね」と会話も弾んでいた。動物のイラストや鳴き声に興味をもっていた。鳴き声クイズをしてカードをもらえると喜んでた。絵本のボタンを押して鳴き声が聞こえてくると「〇〇の声だね」と友だちや保育者に伝えていた。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 鳴き声の出る絵本を使い、様々な動物の鳴き声が歌に出てきたことでより一層興味をもつ姿が見られた。普段の保育でも言葉を覚え始める乳児期には動物は犬や猫など名称で語り掛けるよりわんわん、にゃーにゃーなど鳴き声を真似しながら名称を口にすることが多く、子どもたちにはなじみがあるようだった。音の出る絵本は視覚と聴覚から入ることで言葉の習得にも大きく影響しているように感じた。

【次回への問い】 英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

4-③.探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>③自由遊び中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

*全クラス：

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

0, 1歳クラスは乗り物のカードを指差しして反応していた。フラッシュカードが配られると、喜んで握り、眺めて楽しんでいた。2歳クラスは乗り物の絵カードで保育者が音を表現したり、運転する真似をしカードを探すゲームをして遊んだ。

4-③. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

*全クラス：

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

日常でよく使う、聞いている英単語は素早く反応し絵カードと結びつけ取ろうとする姿が見られた。聞きなれない英単語は絵カードと結びつけるまでに少し時間がかかっていた。幼児クラスは“乗り物”がテーマということで、馴染みがあって興味があり、講師の真似をして英語で乗り物の名前や音を言っていた。

興味を持った絵カードを持って、一人ひとり自信を持って発言していた。

歌に合わせて、子どもたちはハンドルを持つイメージをして運転手になりきり、笑顔で運転しながら歌っていた。☒



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 “乗り物”がテーマということで、より興味をのめる内容だったこと、日本語で知っているうえで取り組めたのでイメージしやすく良かった。動物同様、興味深い題材なので乳児期からは擬態語を使って乗り物を認識しており、さらに幼児期になると擬態語と絵カードを合わせ実物の乗り物を結び付けゲームや、ごっこ遊びに発展させているようだった。

【次回への問い】 英語講師、保育者も含めて子どもたちとオノマトペの絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。

4-④. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。

*全クラス：

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

保育者がオノマトペの絵カードを見せると各々自分の感じた擬態語や擬音語で答えていた。身近な擬態語や擬音語は揃うことも多かったが、馴染みのない絵カードに関しては子どもたちそれぞれ違った擬態語や擬音語を発していた。保育者がジェスチャーで伝えると理解して答える様子もあった。



5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】カードを見て、ジェスチャーや擬音語、擬態語を交えて表現することで子どもたちの理解がより大きくなるように感じた。名称だけでなく、動きや様子を音で表現することでごっこ遊びに発展したり共通理解にもつながっていそうだった。

【次回への問い】幼児クラスは英語で工作の時間があり、英語レッスンで学んだ単語にちなんだ工作を毎月行っています。英語で工作の時は英語講師が英語で説明し、保育者も日本語通訳をせず、工作の見本と一緒に作りながら参加し、子どもたちを手伝います。2024年度に読んだエリックカールの絵本"The very hungry caterpillar"と"Today's Monday"を再度英語で読み返し、子どもたちが主体的に、自分の「1週間なにを食べる表」を制作してみてはどうか？工作を通して、食べ物の擬態語、擬音語への興味も深まっていくのではないかな？

4-⑤. 探究活動の実践（英語で工作）

<活動の内容>①The Very Hungry Caterpillar、と Today Is Mondayの英語の読み聞かせを行い、その後自分の「1週間なにを食べる表」を制作する。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

様々な料理や食材から自分たちで楽しくメニュー作りをしていた。

分からない単語も講師に教わりながら、発音していた。Can I have～?のやりとりにも慣れてきて、積極的に行っていた。



5-⑤. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】日頃の保育の中で擬音語、擬態語で表現していることが多く子どもに話かける上ではとても大切なものになっていると感じた。英語に関しても単語を覚えるのにプラスとなり子どもたちは日本語と併せて英語を覚えたりジェスチャーを加えることで表現が豊かになっていると感じた。

【次回への問い】子どもたちはことばには日本語も英語もあり、またそれ以外に様子を表す擬態語や擬音語もあって、しかもそれらにも日本語や英語特有の音があることに気づいたかもしれない。また園には日本語や英語以外のことばを話す友だちもいることから、日本語英語以外の世界についても興味を持ち探究活動が広げられるのではないか。